

わ

が

街

わ

が

故

郷

(株)NTN金剛製作所と河内長野市

《会社紹介》

(所在地) 本社／本社工場

〒586-0001 大阪府河内長野市木戸町177番地

TEL 0721(53)1317 (代表)

(沿革)

大正14年3月(1925)

中西製作所として創業、ボールベアリングの製造を開始。

昭和14年3月(1939)

社名を金剛ベアリング株式会社に改称。

昭和36年4月(1961)

東洋ベアリング製造株式会社と資本ならびに業務の提携を行い、その系列にはいる。

平成1年10月(1989)

社名を株式会社NTN金剛製作所に改称。

(製造品目)

当社は現在、NTN株式会社グループの一員として、深溝玉軸受・クラッチベアリングおよび、ベアリングユニットの生産を担当しております。

1923年(大正12年)に大阪市西淀川区で旋盤4～5台を据えて、当時池田商店という工具商の注文に応じて農機具用のベアリング製造を手がけたのが当社の始まりで、2年後、日本で5番目の軸受専門メーカー中西製作所が誕生しました。

当時、ベアリングの製造は将来性のある新しい仕事として魅力はありましたが、日本の市場を席捲していたSKF製品に対抗できる製造技術には遠く及ばず、日本の軸受工業の揺籃期でありました。創業の辛苦を乗り越え事業の基礎が固まった昭和2年、現在の河内長野市三日市町の駅前に工場用地を見つけ移転し、昭和15年12月、株式会社化を契機に現所在地の千代田駅前に再度工場を移転しました。当時のことから、運送上の理由で鉄道の駅に近く、排塵性の要求から田舎という立地を選択したものです。



本社・工場全景

以後、KBKというブランドで製造販売を続けておりましたが、産業再編のうねりの中で、昭和36年4月に東洋ベアリング製造株式会社と資本並びに業務の提携を行い、その系列会社として今日に至っております。

当社と河内長野市のご縁は、三日市町に移転

した昭和2年以來76年間、当地での生産活動を続けていることになり、昭和29年4月に6ヵ町村合併により河内長野市が誕生しましたから、それよりも27年前からということで、河内長野市の地場産業の一つとして、その歴史とともに歩んできたこととなります。その間、当社所在地の市北部は大阪のベッドタウンとして大きな変貌を遂げましたが、市域全般は、歴史の古い佇まいを留めつつ緩やかな発展を続ける地方都市というのが、私の「わが街・わが故郷」河内長野市観です。

《河内長野市のこと》

河内長野市は大阪府の南東端に位置し、東は金剛山脈、南は和泉山脈、西は河泉丘陵に囲まれ北に開けた町で、中心部を大和川の支流石川が流れています。楠木正成ゆかりの地であり、市の木はくすのき、市の花は楠木氏の旗印菊水にあやかる菊の花と定められております。

河内長野の特産品には、ベアリング・可鍛鋳鉄・ステンレス製品・天野酒・妻楊枝・竹スダレ・釘・鋅螺などがありますが、特に妻楊枝は全国的に有名です。

名所旧跡や観光・散策スポットは、市域の至る所に散在しており、実に歴史の古い町です。市内とその周辺の古寺旧跡では、観心寺、天野山金剛寺、延命寺、槇尾山施福寺などが著名です。レクリエーションスポットは関西サイクルスポーツセンター、府立花の文化園、府立長野公園などがあり、河内長野駅は金剛山（標高1,125m）登山バスの起点でもあります。散策ルートは市域の70%が山林地帯のため、枚挙にいとまがありません。それらの散策ルートが、いずれも然程発展せず寂れて詩情をそそのもの、わが故郷河内長野の特徴です。

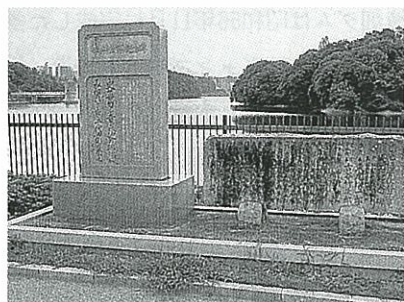
これらの中からいくつか、散策スポットを選

んでご紹介いたします。

《寺ヶ池公園～天野山金剛寺・滝畑ダム》

当社の所在地であります千代田駅前を起点とした、散策ルートを辿るいくつかのスポットを最初にご紹介いたします。

南海電車高野線の千代田駅を降り、いかにも田舎町らしく雑然として賑わう通りを西へ約300m行きますと、寺ヶ池総合公園の入り口に行きあたります。人工溜池寺ヶ池の歴史は古く江戸時代の初めに遡り、河内地方の新田開発の魁と伝えられております。今は総合公園として整備され、南に岩湧山、東に金剛山、二上山、遠くは生駒山系を眺望できる憩いのスポットです。広大な池の面には、春夏秋冬の色彩が鮮やかに映し出されます。



寺ヶ池公園

公園西端の赤峰市民広場で暫時休息し、道路を越えて小山田の集落に足をいれると、直前まで眼前にあった新興住宅群とはまるで肌違いの田舎路が続き、やがて天野街道に達します。街道沿いは葡萄畑の丘陵と山峡の田畑と痩せた天野川で、だらだらと天野山金剛寺へと続きます。やがて集落の風鈴が涼やかな音色を奏ではじめると山門です。

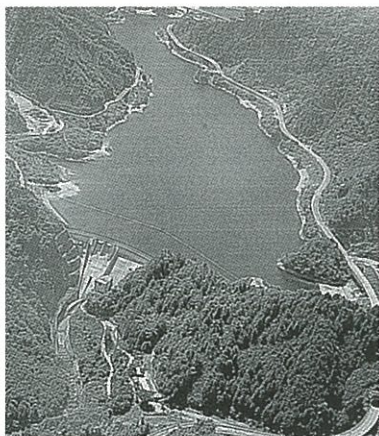
天野山金剛寺は、奈良時代に行基が開創し、弘法大師が密教の修行をしたと伝えられ、女人高野・天野行宮の名で知られております。建築物や



天野山金剛寺

寺宝には多くの国宝・重要文化財があり、特に室町時代に造られた庭園は一見の価値があります。

金剛寺から滝畑へは上り坂が4kmほど続きますから、門前からバスを利用した方がよろしいかと思います。関西サイクルスポーツセンターを通り越し、小さなトンネルを2つ潜ったら、そこから先は滝畑ダム湖畔の周回道路になります。滝畑ダムは昭和56年11月に完成した多目的ダムで、周辺にはキャンプ場や遊歩道、付帯設備が整備されており、水没した滝畑地区の由来を伝える資料館もあります。どこのダムでもそうでしょうが、山と空と雲を映して鳥と虫の声だけが聞こえる静寂が、市の中心部の会社から車ならわずか20分の所にある訳で、これもわが街河内長野市の姿であります。



滝畑ダム

滝尻からさらに奥へ入ると名勝光滝寺、さらに進むと滝畑四十八滝へと路はつながります。帰りは滝尻からバスに乗車するに限ります。小さいほうのコミュニティバスに乗ると、市内の旧村落部を通して河内長野駅に到着します。途中通る日野の石川上流沿いは蛍の名所で、夏の夕暮れ時は人出で賑わいます。今どき、扇子を片手に汗を飛ばしながら歩む住人が途中で手を上げるとバスが止まるのには懐旧の驚きを覚えます。

《三日市駅～延命寺・観心寺界限》

そのすぐ前に当社が最初に工場を建てた南海電車三日市町駅は、高野街道三日市宿にあって、付近は今もその昔の姿を随所に残しております。駅近くには、高野山これより九里と書いた御影石の道標が残っており、往時の風情を伝える民家も街道沿いに点在しております。ちなみに、当社の工場跡の半分は今も更地で、そのうち市の駅前再開発ビルが建設されるようです。私どもには“夏草や兵どもが夢の跡”の風情であります。

駅を降りて東へ歩き始めるとすぐに、鄙びた雰囲気漂わせる山道となります。石見川のせせらぎを耳にし、今も残る薬工場の水車を眺めたりしながら、舗装された山峡の緩い坂道を3kmほど辿ると名刹延命寺の山門に到着します。弘法大師が地藏菩薩を刻んで安置したのが起源



延命寺

とされる延命寺は、紅葉の名所として有名で、樹齢1000年の夕照のもみじは大阪府の天然記念物に指定されております。境内の道はぐると一山を巡る形になっており、天辺の展望所から望む金剛山の頂きは見事な一幅の絵となって、眺める人の心を和ませてくれます。

観心寺は延命寺から2km、杉落ち葉の積もる舗道を辿り、峠を越えたところにあります。奈良時代に役小角が開き、西暦827年に弘法大師の弟子実恵が創立したこの寺は、足利尊氏の軍と戦い湊川に敗死した南北朝時代の武将楠木正成公幼少の頃の学問所でもあり、南朝ゆかりの寺として有名です。国宝の金堂をはじめ、楠公建掛塔などの重要文化財が多数あり、700年昔の夢幻が深閑とした境内一杯に拡がり、凜とした空気に包まれております。一番奥まった所には後村上（南朝第2代）天皇の檜尾陵もあります。



観心寺金堂

帰路は山門前でバスに乗ると10分ほどで河内長野駅に着きます。駅前には長野公園があり、この展望所に上ると市内が見渡せます。桜の名所で、季節には一山すっかり桜の花に覆われます。駅前の商店街はすっかり寂れておりますが、所々に地酒をふるまうお店もありますし、すぐそばに温泉施設もありますので、手軽に疲れを癒すこともできます。

